



「有脚注口土器」



今回紹介する遺物は、佐倉市宮内井戸作遺跡から出土した縄文時代後期（今から約3500年前）の「有脚注口土器（脚が付く急須形の器）」です。加曽利B1式期に位置づけられる土器で、球状を呈する胴部に4本の脚部が付くようす。現状では胴部と右前脚部分のみが接合し、残存高14.1cm、胴部最大径は約10.6cmになります。口縁部と注ぎ口は欠損していません。脚部は高さ6cmほどの円形を呈し、底面に縄代（植物などを編んでつくった敷物）の痕が見られます。遺跡からは同時期の注口土器が数多く見つっていますが、脚を有するものは現在のところこの1点のみです。注口土器は何か特別なときに使用された器と考えられますが、脚を付ける意味は何だったのでしょうか。縄文人の豊かな感性が感じられます。

お知らせ!

「ご案内」

企画展「最新出土考古資料展」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成18年7月10日(月)から12月28日(木)まで企画展を開催しています。今回は第10回遺跡発表会で発表いたしました、南作遺跡、馬場No.1遺跡、本佐倉北大堀遺跡の展示をおこなっています。出土遺物や発掘調査の成果が皆さんをお待ちしていますので、ぜひご来場ください。土日祝祭日休館。入場無料。



「発掘中・発掘予定の遺跡」

9月から2月の予定

「成田市」

大竹井戸作遺跡（中世）

「佐倉市」

臼井屋敷跡遺跡（縄文時代～中世）

佐倉城跡（中・近世）

井野長割遺跡（縄文時代）

「四街道市」

笹目沢I・II遺跡（奈良・平安時代）

「印西市」

池ノ下遺跡（縄文時代・古墳時代～奈良・平安時代）

「印旛村」

天神遺跡（縄文時代～奈良・平安時代）

細町遺跡（古墳時代～奈良・平安時代）

がんばってます!

「室内作業」

「本部統合事務所」

佐倉市錦木町198-3 TEL.043-484-0133

台方下平I遺跡（成田市 弥生時代～平安時代）

宮田台遺跡（成田市 縄文時代）

久井崎II遺跡（成田市 縄文時代）

小野権現原遺跡（成田市 古墳時代）

大竹井戸作遺跡（成田市 中世）

大竹林畑遺跡（成田市 古墳時代～奈良・平安時代）

本佐倉城跡（酒々井町 中世）

臼井屋敷跡遺跡（佐倉市 中世）

井野長割遺跡（佐倉市 縄文時代）

馬場No.1遺跡（四街道市 弥生時代～奈良・平安時代）

道作古墳群（印西市 旧石器時代～中・近世）

宮ノ後遺跡（栄町 古墳時代～奈良・平安時代）

こつちもやってます!

「佐倉南統合調査室」

佐倉市岩富町538-1 TEL.043-498-0765

宮内井戸作遺跡（佐倉市 縄文時代）

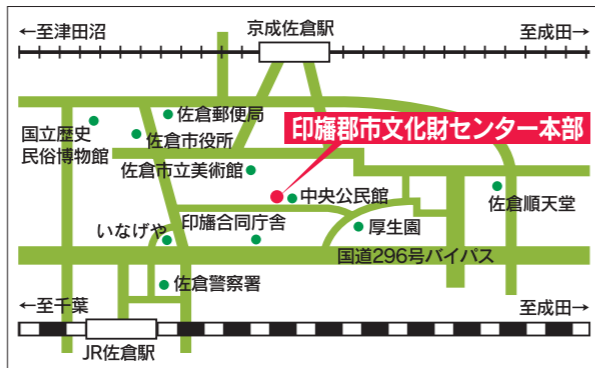
内田端山越遺跡（佐倉市 古墳時代・奈良・平安時代）

西御門新堤遺跡（佐倉市 縄文時代・古墳時代）

西御門明神台遺跡（佐倉市 旧石器時代・奈良・平安時代）

「お知らせ」

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 千葉県佐倉市錦木町198-3 〒285-0025 TEL.043(484)0126(代) FAX.043(484)0126(代) 平成18年9月29日



「佐倉市井野長割遺跡」



この土製品は、昭和55年に佐倉市立井野小学校の敷地で小学生が採集した動物形土製品です。尻尾と背、鼻の一部を欠くものの、ほぼ完全な形をとどめています。大きさは全長約10cm、高さ約7cm、幅約7cmです。体の形や顔の特徴から、イノシシをかたどったものと考えられます。また、体に施されている文様から縄文時代晩期中葉（今から約3000千年前）のものだと判断できます。

体は粘土板を三角柱状につなぎ合わせて中空に作られており、お尻をふさがずに穴が開いたままになっています。体や四足が大きく作られているのにくらべ、頭部が小さいためやや不釣り合いな印象を受けます。それでも、四足を踏ん張って顔をもたげている格好は、まるで人間を威嚇しているところを表現しているかのように見えます。みなさんにはどのように見えますか。

イノシシ形土製品は東日本を中心に縄文時代後期以降のものが多く見つっていますが、北海道釧路市日ノ浜貝塚の早期のものが最古に位置付けられています。成獣のほか瓜坊と呼ばれる幼獣を表現したものもあり、形もさまざまです。イノシシはシカとともに縄文人の身近な動物の一種で、飼育されていた可能性が指摘されています。



具体的な用途を示す発見例はありませんが、アイヌ民族が行なうような豊穡祈願・感謝などの動物祭祀・崇拝に用いられたものではないでしょうか。印旛郡内では、佐倉市吉見台遺跡、成田市殿台遺跡、白井市復山谷遺跡、栄町大畑I-4遺跡などでイヌやイノシシなどの動物形土製品が出土しています。

# 佐倉市 西御門新堤遺跡



## ムラの祭り

西御門新堤遺跡は、佐倉市と千葉市の境界付近、鹿島川に合流する弥富川によって開析された標高30m前後の台地上に立地しています。

発掘調査が行われた結果、縄文時代の竪穴住居跡9軒、古墳時代前期から中期の竪穴住居跡33軒、奈良・平安時代の掘立柱建物跡1棟、方形周溝状遺構18基など多くの遺構が見つかりました。中でも竪穴住居跡は、古墳時代前期から中期への過渡期のものが最も多く見つかりました。この時期は、地方色の強い土器から全国的に斉一性の強い土器へと移り変わる時期にあたります。

この遺跡では壺や甕などの日常の容器に加えて小型土器（ミニチュア土器）が多く出土したことが特徴といえます。15号住居跡や33号住居跡では住居の隅からまとめて出土しました。これはもともとその住居で使われていたものが残されていたのではなく、住居が使われなくなった後にそこにまとめて置かれたと考えられます。遺跡から出土した60点あまりの小型土器は、器の高さが

10cmほどと非常に小さいものですが、通常の壺や甕などと同じように作られ、非常に精巧な作りのものもあります。種類も壺、甕、鉢、高坏など日常の容器と同じ種類があります。これらは日常的に使用された痕跡が見られないことから、ムラのなかで行われた収穫を祈願したり、収穫を祝う祭りなどに用いられたと考えられます。完全な形で出土しているものが数多く見つかったことから、祭りに使用された後は壊されることなく、使われなくなった住居や窪地などに置かれたものと考えられます。

また23号住居跡では、現在の鍋にあたる甕ばかりが数多く出土しました。これらの甕は、壊れていない状態で見つかるものが多く、特に住居の中央付近に集中していました。これらは、それまでこの住居で使用していたものを住居が使われなくなったときにそこに残っていたものと考えられます。

今から1600年ほど前に、このムラではどのような祭りが行われていたのか、またどのような習慣があったのかを住居跡などから出土した土器から、思いをはせてみてはいかがでしょうか。

